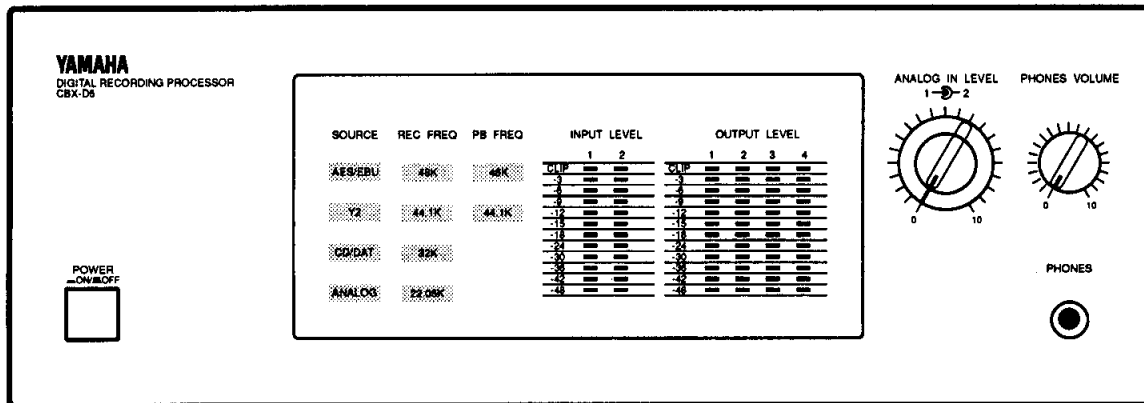


YAMAHA

DIGITAL RECORDING PROCESSOR

CBX-D5

TEST PROGRAM GUIDE



目次

A. CBX-D5 テストプログラムの概要	2
B. 動作環境	2
C. テストプログラムの起動	2
D. Driver ダイアログボックス解説	3
E. テストプログラムの使用方法	4
F. 各テスト項目の解説	5~15
1 SCSI ID スイッチ	5
2 HOST Select スイッチ	5
3 MIDI, TO HOST の接続	6
4 LED の点灯	6
5 OUTPUT 1 レベルメーターとサイン波の再生	7
6 OUTPUT 2 レベルメーターとサイン波の再生	7
7 OUTPUT 3 レベルメーターとサイン波の再生	8
8 OUTPUT 4 レベルメーターとサイン波の再生	8
9 OUTPUT SYNC WORD CLK	9
10 2ch インターリーブファイルの再生	10
11 4ch インターリーブファイルの再生	10
12 異なるサンプリング周波数のファイルの同時再生	11
13 EQ エフェクト付のサイン波の再生	11
14 Delay エフェクト付のサイン波の再生	12
15 Chorus エフェクト付のサイン波の再生	12
16 再生サイン波の Panning	13
17 周波数変換を用いたサイン波の再生	13
18 Recording source の選択 (Digital inputs)	14
19 ANALOG IN レベルボリュームと Trigger Level	14
20 DIGITAL IN の周波数変換	15
G. テスト用オーディオファイル仕様	15

A CBX-D5 テストプログラムの概要

CBX-D5 Hardware Checker (以下「テストプログラム」と称す)は、Macintosh上で動作するアプリケーションプログラムです。プログラムの操作は、通常のMacintoshのアプリケーションと同様、マウス及びキーボードによって行なうことができます。

各テスト項目の実行結果は、ユーザーが、D5からの出力を耳で聞くことによって判定するものと、Macintoshの画面に表示されるものがあります。

弊社では製品の工場出荷に際し、厳密な製品検査を行なっております。しかしながら輸送中の衝撃や厳しい使用環境等により問題が発生することがあります。そのようなときの原因分析の一助となるようにテストプログラムディスクを同梱しております。CBX-D5をアプリケーションソフトウェアと共に使用するとき、なんらかの問題が生じた場合、このテストプログラムでCBX-D5が問題なく動作しているかを確認してください。テストプログラムによりCBX-D5に問題ありと診断された場合、ヤマハサービス拠点（オーナーズマニュアル巻末に記載）にテストプログラムの結果を添えてご連絡ください。また、アプリケーションソフトウェア側に問題がありそうな場合、そのソフトウェアを購入された販売店、または輸入代理店にお問い合わせください。

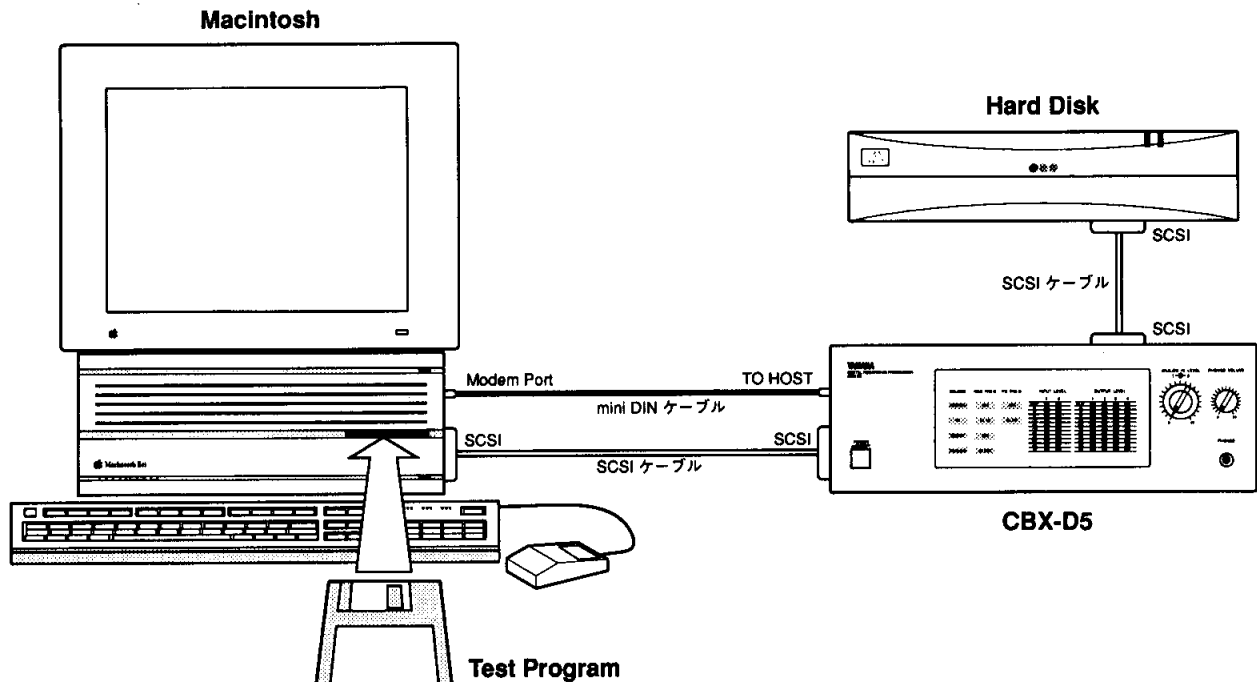
B 動作環境

テストプログラムを使用するには、Macintosh本体 (classic II以降※)、ハードディスク、CBX-D5が必要となります。

Macintoshに2台以上のD5が接続されている場合には、SCSI IDナンバーの最も小さなD5がテストの対象となり、そのほかのD5は使われません。ただし、テストプログラムの立ち上げ時に表示されるダイアログボックスによって、特定のD5だけをイネーブルにすることにより、他のD5をテストすることもできます。

(※対応機種はヤマハ特約店にご確認ください。)

〔テストプログラムのための接続例〕



C テストプログラムの起動

テストプログラムを実行するためには、まずプログラム(アプリケーションファイル)と、必要なオーディオファイルを、ハードディスク上の同じフォルダー内にコピーしておかなければなりません。

●オーディオファイルの作り方

注意：オーディオファイルを作るには、ハードディスクに8MBytes以上の空き容量を必要とします。また、オーディオファイルを効率よく再生するために、ハードディスクの最適化を実行されることをお奨めします。尚、ご使用中のアプリケーションのキーファイル等がある場合は、デ・インストール作業を行ってから最適化を実行してください。

- ① テストプログラムディスクの中のTFMakerというファイルをハードディスクにコピーします。
- ② TFMakerを起動します。
- ③ TFMakerやテストプログラムの入っているフォルダーで、Createをクリックすると、7つのオーディオファイルが作成されます。

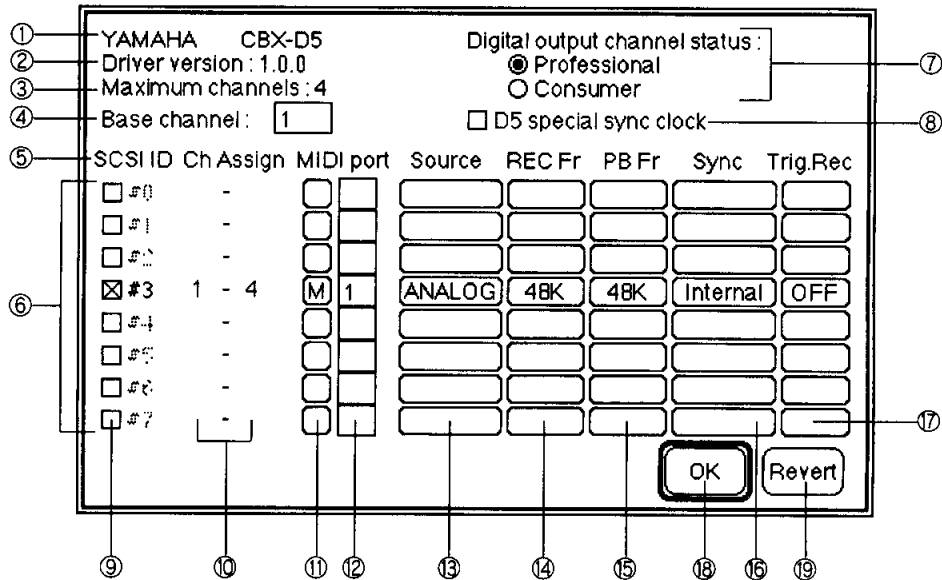
必要な接続を終え、D5の電源がオンになっている状態で、テストプログラムのアイコンをダブルクリックし、テストプログラムを起動してください。

まずD5のパラメーターを設定するダイアログボックスが開きます。通常は何もせずにreturnキーを押してください。

(右ページ参照)

画面の左上に、「D5 Tester」と書かれたウィンドウが開き、テスト項目1が開始できる状態になります。もしCBX-D5がMacintoshから認識できない場合には、エラーメッセージが表示されて、プログラムは終了します。

D Driver ダイアログボックス解説



- ① 製品名「YAMAHA CBX-D5」を表示します。
- ② Macintosh のアプリケーションが使用する、CBX-D5 用ドライバーのバージョンナンバーを表示します。
- ③ 現在使用できるオーディオトラックの数を表示します。
⑨のボタン操作により増減します。
- ④ ベースチャンネルの設定を行ないます。
設定範囲は1から128です。
- ⑤ 各々の CBX-D5 のパラメータータイトルを表示します。
- ⑥ 各行が、その SCSI ID ナンバーを持つ CBX-D5 のパラメーターを表示します。CBX-D5 が接続されていなければパラメーターは表示されません。
- ⑦ Digital output 使用時のチャンネルステータスの切り替えを行なうボタンです。Professional : 業務用、Consumer : 民生用
- ⑧ D5 special sync clock のイネーブル/ディスエーブルの切り替えを行なうボタンです。
イネーブルにすると、CBX-D5 はオーディオトラックと Macintosh の同期のための専用の MIDI システムエクスクルーシブメッセージを受信できるようになります。
- ⑨ CBX-D5 のイネーブル/ディスエーブルボタンです。
ディスエーブルにすると、対応する CBX-D5 は使用されません。
- ⑩ 該当する CBX-D5 の使用するチャンネル範囲を表示します。
この値は④のベースチャンネルの値によって決定されます。
- ⑪ CBX-D5 と Macintosh 間の通信用の MIDI ポートの切り替えを行なうボタンです。M : Modemポート、P : Printerポート
- ⑫ 上記 MIDI ポートのケーブル番号の設定を行ないません。
この値は CBX-D5 と Macintosh を MIDI Time Piece (Mark of the Unicorn 社) などを経由して MIDI ケーブルで接続する場合に用います。設定範囲は使用する MIDI インターフェイスに依存します。それ以外の場合は常に1に設定します。
- ⑬ オーディオソースの選択を行なうボタンです。
AES/EBU → Y2 → CD/DAT → ANALOG → AES/EBU の順に切り替わります。
- ⑭ REC FREQ の選択を行なうボタンです。
48K → 44.1K → 32K → 22.05K → 48K の順に切り替わります。
- ⑮ PB FREQ の選択を行なうボタンです。
⑯の同期クロックが Internal の場合には 48K と 44.1K との切り替えとなり、同期クロックがそれ以外の場合には 48K → 44.1K → 32K → 48K の順に切り替わります。
- ⑯ 同期クロックの選択を行なうボタンです。
Internal → External → AES/EBU → Y2 → CD/DAT → Internal の順に切り替わります。
- ⑰ トリガー録音モードの選択ボタンです。
OFF → -9dB → -15dB → -18dB → -24dB → -30dB → -36dB → -42dB → -48dB → -Inf. (マイナス無限大) → OFF の順に切り替わります。
- ⑱ 各設定の終了を示すボタンです。
すべての設定を終了したときに押します。通常は①～⑰の設定は変更せずに Return キーを押すか、OK をクリックします。
- ⑲ すべての設定を変更前の状態に戻すボタンです。
このボタンをクリックするとすべてのパラメーターはダイアログボックスが開いたときの設定に戻ります。

E テストプログラムの使用方法

テストプログラムを起動した直後は、テスト項目1が選択されています。

テスト項目の番号はウィンドウの左下に表示されており、テンキーで数字を打ち込み enter キーを押すことにより、任意のテスト項目へ移ることができます。

また、その右隣には「戻る」「次へ」と書かれたボタンがあり、マウスでクリックすることにより、前後の項目へ移ることができます。

いくつかのテスト項目にはオーディオファイルが必要です。テスト項目に必要なオーディオファイルが、テストプログラムと同じフォルダーの中に見つからない場合には、そのファイルを指定するためのダイアログボックスが開き、正しく指定すればテスト可能な状態になります。Cancel を指定すると、1つ前のテスト項目へ戻ります。

また、周辺機器が必要なテスト項目で、要求される機器をお持ちでない場合には、「次へ」のボタンをクリックしてテスト項目を進めてください。

ウィンドウの一番上の行には、そのテスト項目のタイトルが表示され、その下にはそのテスト項目の内容が表示されます。

右下隅には「開始」ボタンがあり、これをクリックすることにより、各テスト項目が開始されます。但し、テスト項目によっては、これらのボタンを必要とせず、無効となっていたり、表示されない場合があります。

また再生中は、このボタンの表示は「停止」となり、このときにもう一度このボタンをクリックすると、そのテスト項目の実行は中断されます。

注意

テスト項目によっては再生用アンプおよびスピーカー、ヘッドフォンから、大音量でテストオーディオデータが再生されます。各テストの実行に際し、使用オーディオファイルがある場合は、各オーディオ機器や耳を痛めないよう、ボリュームをしばってテストを開始してください。

「次へ」ボタンの右側には、「時刻 00:00」と表示されており、再生中には、経過時間が表示されます。

この他に、テスト項目によって、各種のパラメーターを設定するためのボタンなどが表示されることがあります。それらの解説については、次ページからの「F. 各テスト項目の解説」をお読みください。

* キーボードによる操作

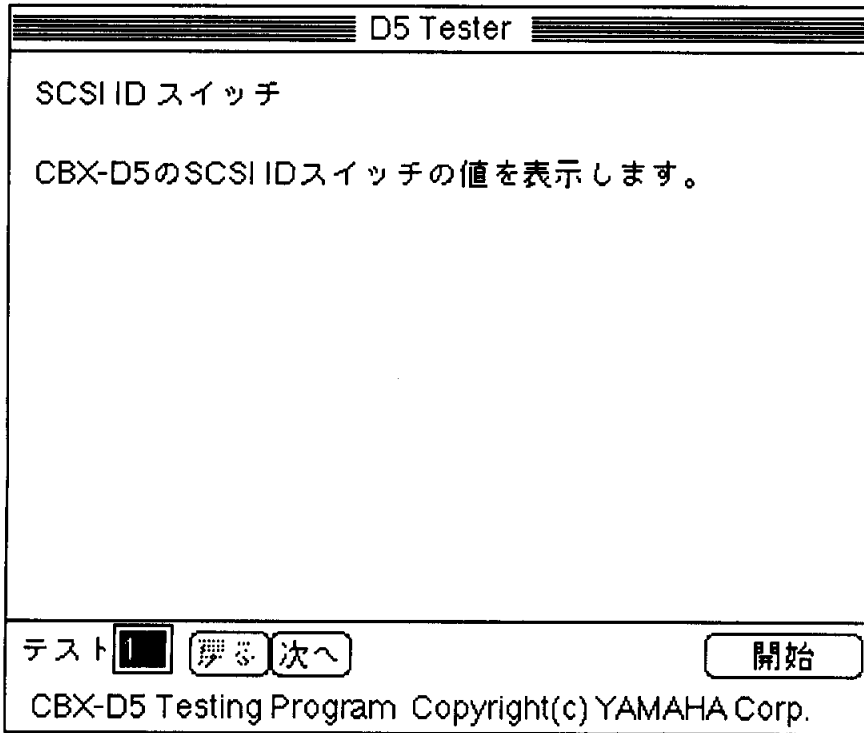
- ← (左矢印) : 「戻る」ボタンと同じ
- (右矢印) : 「次へ」ボタンと同じ
- Enter キー : テスト項目番号がセレクトされているときには、「開始」ボタンと同じ
- command + Q キー : 「Quit」 menu と同じ
- テンキーの 0 : テストを実行中の場合、「停止」ボタンと同じ

【参考】

テストプログラムの各テスト画面の表示は、ご使用中のシステムフォントにより、若干のちがいが生じる場合があります。

F 各テスト項目の解説

1. SCSI ID スイッチ



【内容】

D5 の SCSI ID スイッチが正しく切り替わるかどうかをテストします。

【テスト方法】

テストを実行すると、テストプログラムは D5 に対し、現在の SCSI ID の値を要求し、結果を画面に表示します。ユーザーは D5 の SCSI ID スイッチを 0 から 7 まで変えてみて、「開始」ボタンを押したとき、正しくその値が表示されるかを確認します。

【使用オーディオファイル】

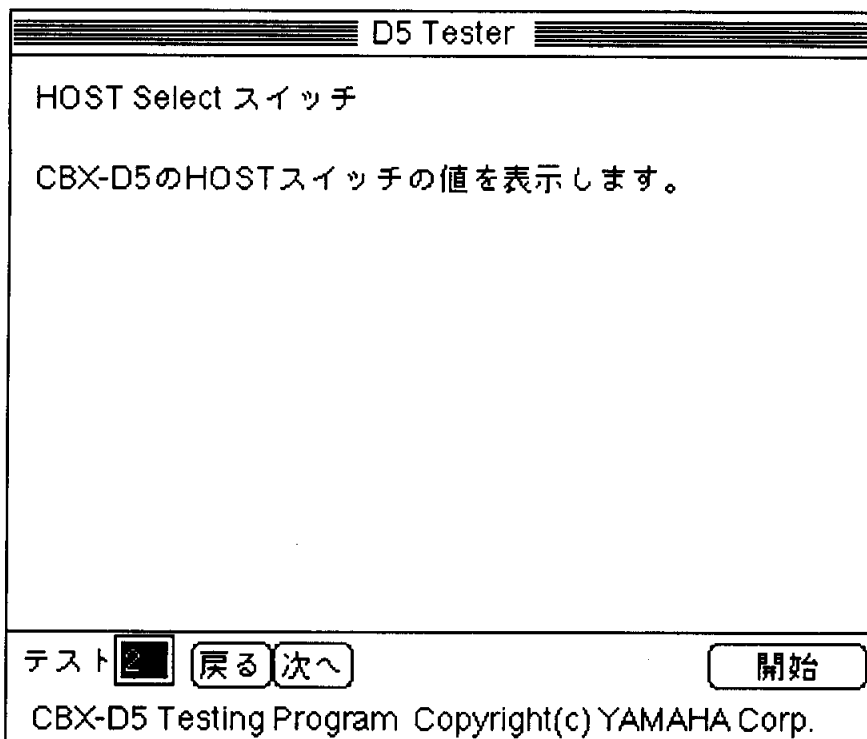
なし

【参考】

テストに限って、D5 や Macintosh、外部ハードディスクの電源を OFF にする必要はありません。

テストを終えたら SCSI ID スイッチを元の設定に戻してください。

2. HOST Select スイッチ



【内容】

D5 の HOST Select スイッチが正しく切り替わるかどうかをテストします。

【テスト方法】

テストを実行すると、テストプログラムは D5 に対し、現在の HOST Select スイッチの値を要求し、結果を画面に表示します。ユーザーは D5 の HOST Select スイッチを切り替えて、「開始」ボタンを押したとき、正しく現在の (Host Select) スイッチの値が表示されることを確認します。

【使用オーディオファイル】

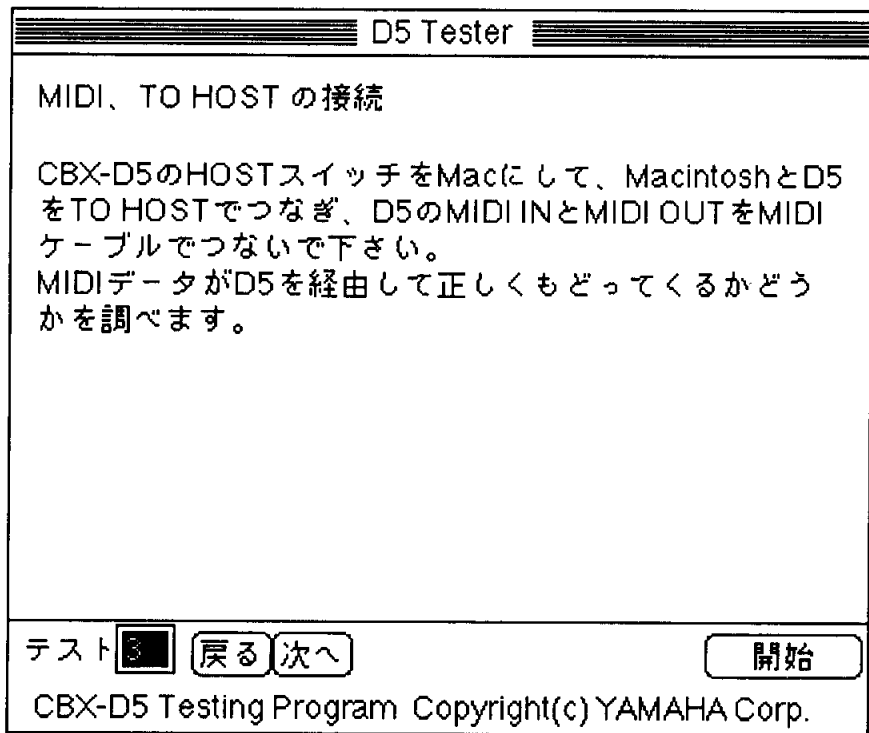
なし

【参考】

テストに限って、D5 や Macintoshの電源を OFF にする必要はありません。

テストを終えたら HOST Select スイッチを元の設定に戻してください。

3. MIDI、TO HOST の接続



[内容]

MIDI 端子、TO HOST 端子が正しく動作できるかどうかをテストします。

[テスト方法]

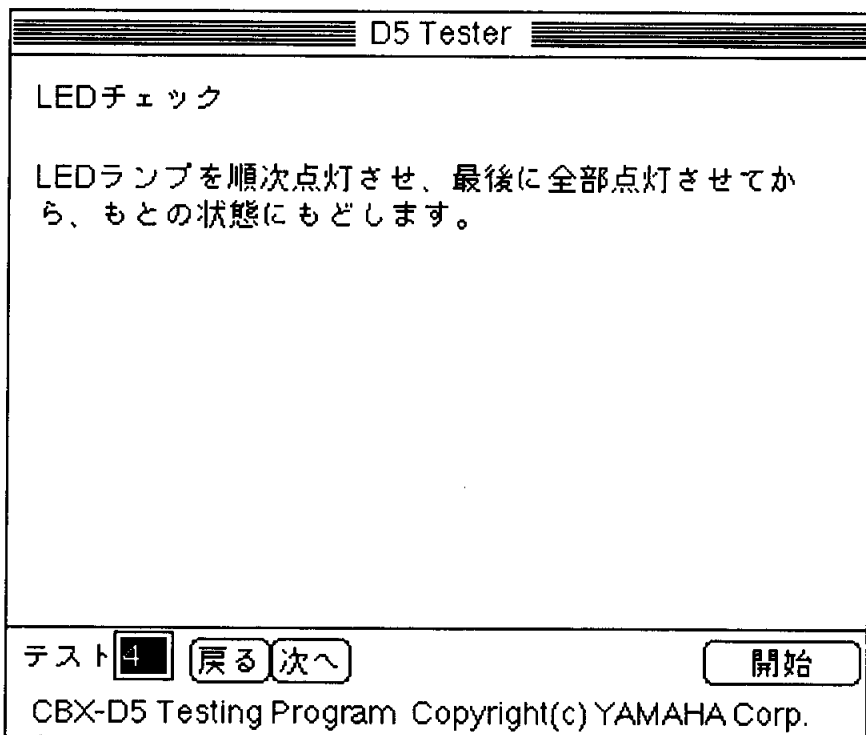
D5 の HOST Select スイッチを Mac にし、Macintosh と D5 をホストケーブルでつなぎ、D5 の MIDI IN と MIDI OUT を 1 本の MIDI ケーブルでつないでおきます。

テストを開始すると、テストプログラムは Macintosh から MIDI データ を出力し、そのデータが Macintosh に返って来たかどうかによって、結果を表示します。

[使用オーディオファイル]

なし

4. LED の点灯



[内容]

D5 の LEVEL LED を除く LED ランプが正しく点灯するかどうかをテストします。

[テスト方法]

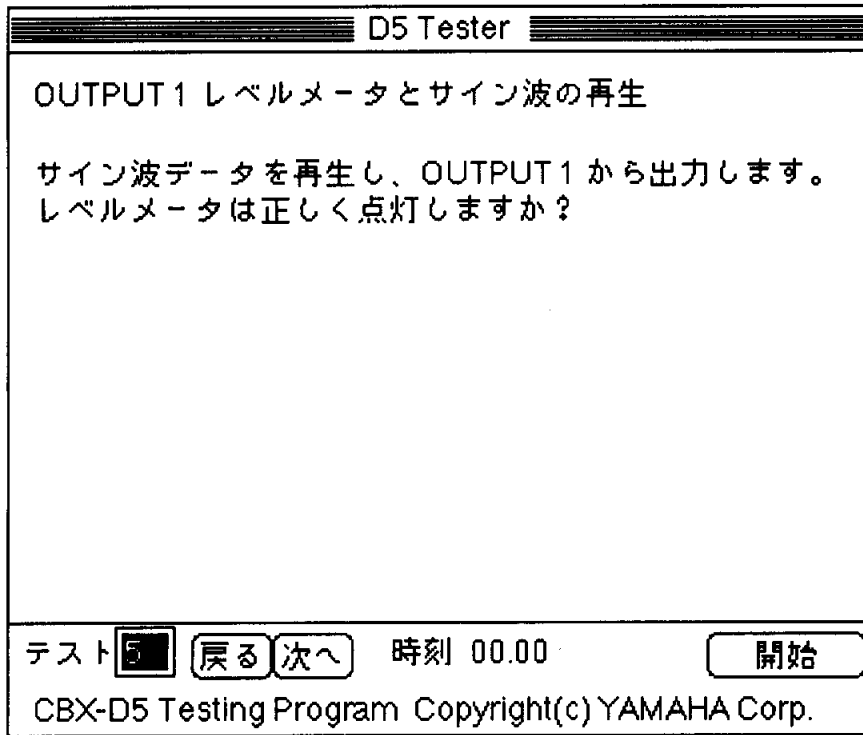
テストを開始すると、テストプログラムは D5 に LED チェック命令を出します。

すると、D5 の LED ランプが順次点灯して行き、最後に全部が点灯してから、もとの状態に戻ります。

[使用オーディオファイル]

なし

5. OUTPUT 1 レベルメーターとサイン波の再生



[内容]

OUTPUT 1 からサイン波データが正しく再生されることを確認します。また、このときレベルメーターが正しく動作することを確認します。

[テスト方法]

テストを開始すると、OUTPUT 1 からサイン波が再生され、OUTPUT 1 のレベルメーターが $-48 \sim -3\text{dB}$ 以上まで点灯することを確認します。(大音量になりますので、ご注意ください。)

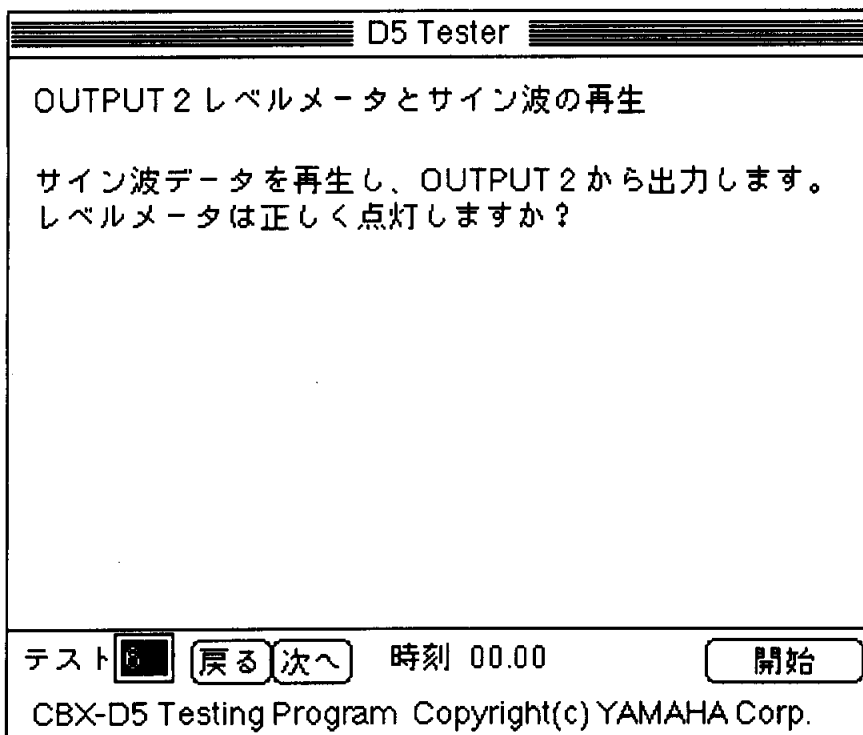
[使用オーディオファイル]

TestData-1

[参考]

このとき再生されるサイン波は、オーディオ測定用基準信号ではありません。

6. OUTPUT 2 レベルメーターとサイン波の再生



[内容]

OUTPUT 2 からサイン波データが正しく再生されることを確認します。また、このときレベルメーターが正しく動作することを確認します。

[テスト方法]

テストを開始すると、OUTPUT 2 からサイン波が再生され、OUTPUT 2 のレベルメーターが $-48 \sim -3\text{dB}$ 以上まで点灯することを確認します。(大音量になりますので、ご注意ください。)

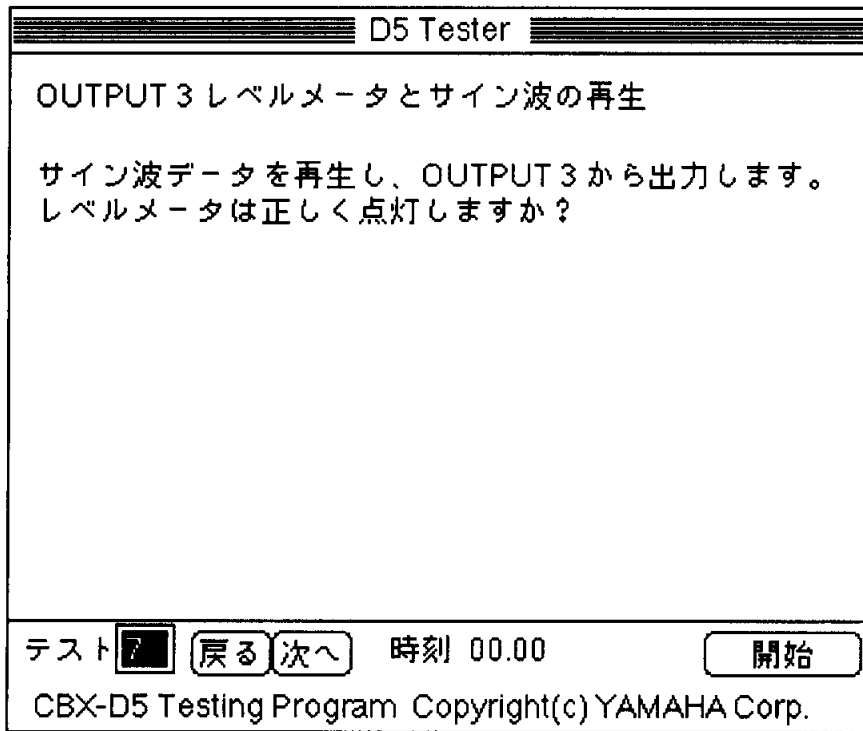
[使用オーディオファイル]

TestData-1

[参考]

このとき再生されるサイン波は、オーディオ測定用基準信号ではありません。

7. OUTPUT 3 レベルメーターとサイン波の再生



【内容】

OUTPUT 3 からサイン波データが正しく再生されることを確認します。また、このときレベルメーターが正しく動作することを確認します。

【テスト方法】

テストを開始すると、OUTPUT 3 からサイン波が再生され、OUTPUT 3 のレベルメーターが $-48 \sim -3\text{dB}$ 以上まで点灯することを確認します。(大音量になりますので、ご注意ください。)

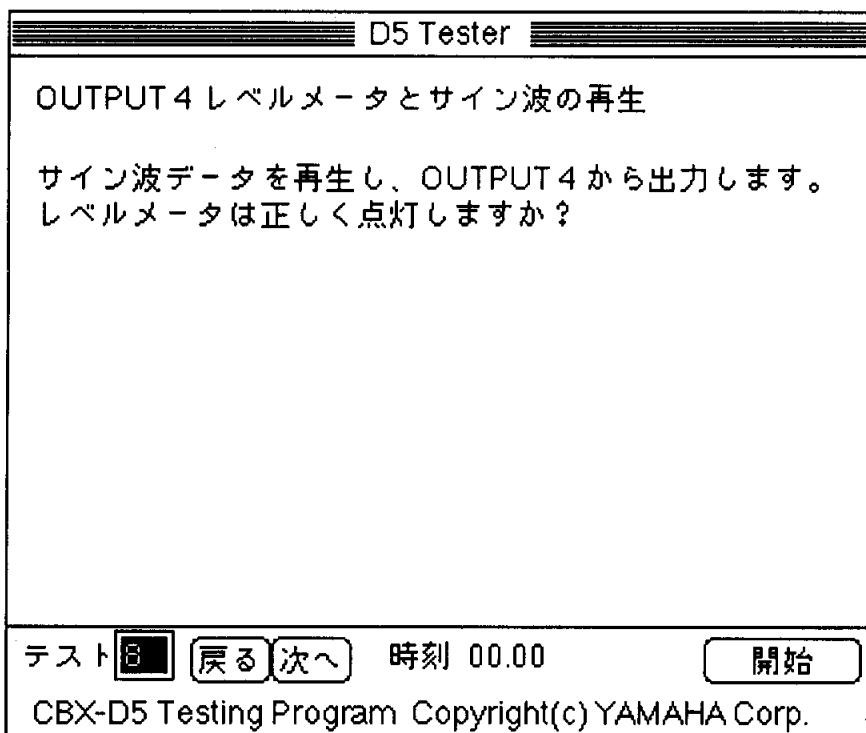
【使用オーディオファイル】

TestData-1

【参考】

このとき再生されるサイン波は、オーディオ測定用基準信号ではありません。

8. OUTPUT 4 レベルメーターとサイン波の再生



【内容】

OUTPUT 4 からサイン波データが正しく再生されることを確認します。また、このときレベルメーターが正しく動作することを確認します。

【テスト方法】

テストを開始すると、OUTPUT 4 からサイン波が再生され、OUTPUT 4 のレベルメーターが $-48 \sim -3\text{dB}$ 以上まで点灯することを確認します。(大音量になりますので、ご注意ください。)

【使用オーディオファイル】

TestData-1

【参考】

このとき再生されるサイン波は、オーディオ測定用基準信号ではありません。

9. OUTPUT SYNC WORD CLK

D5 Tester

OUTPUT SYNC WORD CLK

左のボタンでSlave clockを選び、右のボタンで入力する周波数を選んで下さい。次に、選んだSlave clockを他の機器から入力して下さい。

テストを実行し、接続された外部機器から、サイン波が正しく再生されることを確認して下さい。

Slave clock	サンプリング周波数
<input checked="" type="radio"/> WORD CLK IN <input type="radio"/> AES/EBU <input type="radio"/> Y2 <input type="radio"/> CD/DAT	<input checked="" type="radio"/> 48KHz <input type="radio"/> 44.1KHz <input type="radio"/> 32KHz

テスト
戻る
次へ
時刻 00.00
開始

CBX-D5 Testing Program Copyright(c) YAMAHA Corp.

【内容】

選択した WORD CLK で正しくサイン波が再生できるか、またその WORD CLK が、指定した周波数のものとして正しく出力されるかをテストします。

【テスト方法】

ユーザーは画面のボタンで、WORD CLK、AES/EBU、Y2、CD/DAT のいずれかを選択し、その同期クロックを外部機器から D5 へ送ります。また、そのときのクロックの周波数を画面で選択しておきます。

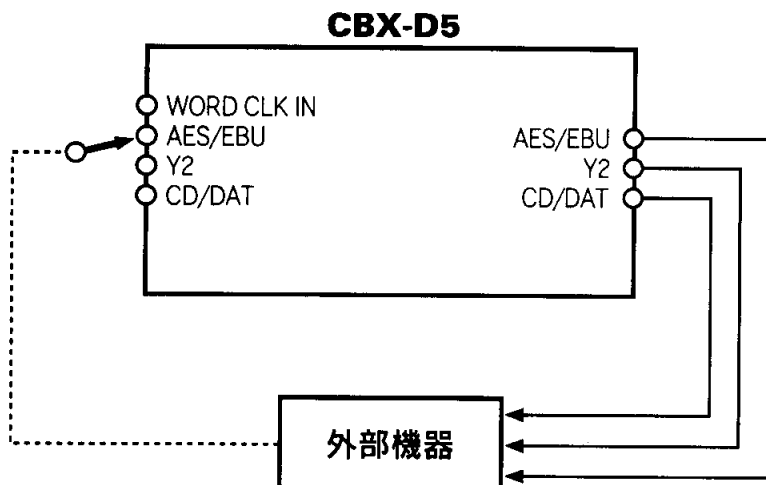
テストを開始し、外部機器からサイン波が正しく再生されることを確認します。

【使用オーディオファイル】

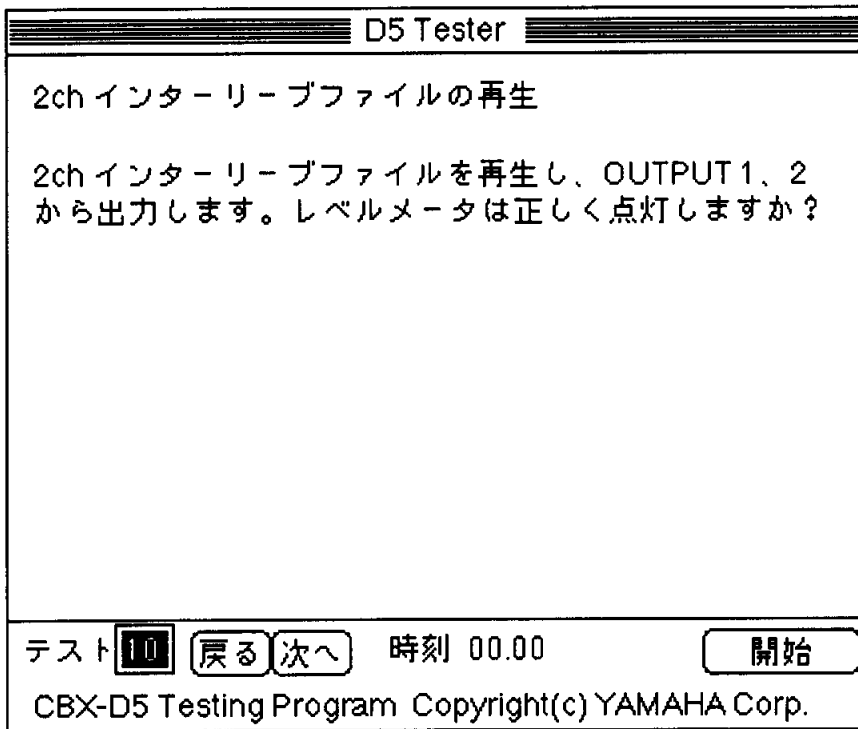
TestData-1

【参考】

サンプリング周波数は、出力されるデジタル信号内のチャンネルステータス部に反映されます。CBX-D5 の REC FREQ の表示には影響しません。また、正しく同期クロックが認識されている場合は、PB FREQ の LED 表示が両方消えます。もし、同期クロックが認識されていない場合は、LED が両方点灯します。



10. 2ch インターリーブファイルの再生



【内容】

2ch インターリーブファイルのデータが正しく再生されることを確認します。

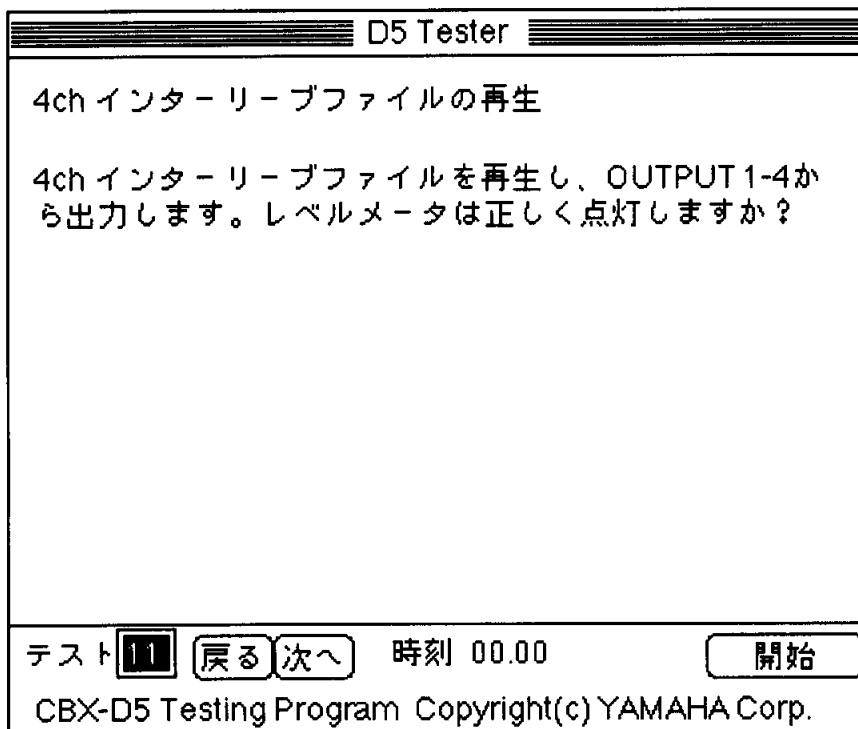
【テスト方法】

テストを開始し、OUTPUT 1、2 からデータが正しく再生され、-3dB 以上までランプが点灯することを確認します。（大音量になりますので、ご注意ください。）

【使用オーディオファイル】

TestData-6

11. 4ch インターリーブファイルの再生



【内容】

4ch インターリーブファイルのデータが正しく再生されることを確認します。

【テスト方法】

テストを開始し、OUTPUT 1-4 からデータが正しく再生され、-3dB 以上までランプが点灯することを確認します。（大音量になりますので、ご注意ください。）

【使用オーディオファイル】

TestData-7

12. 異なるサンプリング周波数のファイルの同時再生

D5 Tester	
異なるサンプリング周波数のファイルの同時再生	
4種類のサンプリング周波数のデータを同時に再生します。同じ音程で鳴っていますか？	
REC FREQ	PB FREQ
<input checked="" type="radio"/> 48K	<input checked="" type="radio"/> 48K
<input type="radio"/> 44.1K	<input type="radio"/> 44.1K
<input type="radio"/> 32K	
<input type="radio"/> 22.05K	
テスト 12 <input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次へ"/> 時刻 00.00 <input type="button" value="開始"/>	
CBX-D5 Testing Program Copyright(c) YAMAHA Corp.	

【内容】

サンプリング周波数の異なるデータを、同時に正しく再生できるかをテストします。

【テスト方法】

TestData-2 : Fs = 48K、TestData-3 : Fs = 44.1K、TestData-4 : Fs = 32K、TestData-5 : Fs = 22.05K の4つのモノラル・ファイルを同時に再生します。

REC FREQ (D5 本体のシステムが使用する動作周波数) と PB FREQ (OUTPUT 直前のコンバーターの周波数) はユーザーが画面のボタンで任意に選択できます。

ユーザーは ANALOG 出力でそれぞれの音程 (周波数) が異常にずれていないかをチェックします。

【使用オーディオファイル】

TestData-2、TestData-3、TestData-4、TestData-5

【参考】

音が左右に振れるように聞こえることがありますが、これは位相の微妙な違いによるもので、故障ではありません。

13. EQ エフェクト付のサイン波の再生

D5 Tester	
EQエフェクト付きのサイン波の再生	
1KHzを12dBカットした状態でサイン波を再生します。レベルメータが-3dBに達しないことを確認して下さい。	
テスト 13 <input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次へ"/> 時刻 00.00 <input type="button" value="開始"/>	
CBX-D5 Testing Program Copyright(c) YAMAHA Corp.	

【内容】

D5 のデジタルイコライザーにより特定の周波数のレベルが下がるのを確認します。

【テスト方法】

テストを開始すると、デジタルイコライザーにより 1KHz を 12 dB カットした状態でサイン波が4チャンネル再生されます。ユーザーはレベルメータが-3 dB まで振れないことを確認します。

【使用オーディオファイル】

TestData-2

【参考】

再生される音に変化がない場合、MIDI の接続をご確認ください。

14. Delay エフェクト付のサイン波の再生

The screenshot shows a window titled "D5 Tester" with the following content:

Delayエフェクト付きのサイン波の再生

テストを実行すると、サイン波のパルスが左右交互に繰り返し再生されながら減衰していくことを確認して下さい。

テスト **14** 戻る 次へ 時刻 00.00 開始

CBX-D5 Testing Program Copyright(c) YAMAHA Corp.

【内容】

D5 のデジタルエフェクターにより Delay エフェクトがかかるのを確認します。

【テスト方法】

テストを開始すると、D5のデジタルエフェクターのセッティングを StereoDelay にした状態で短いサイン波が再生されます。ユーザーは再生終了時に Delay がかかるのを耳で聴いて確認します。

【使用オーディオファイル】

TestData-2

【参考】

再生される音に変化がない場合、MIDI の接続をご確認ください。

15. Chorus エフェクト付のサイン波の再生

The screenshot shows a window titled "D5 Tester" with the following content:

Chorusエフェクト付きのサイン波の再生

再生されるサイン波に、Stereo Chorusエフェクトがかかっていることを確認して下さい。

テスト **15** 戻る 次へ 時刻 00.00 開始

CBX-D5 Testing Program Copyright(c) YAMAHA Corp.

【内容】

D5 のデジタルエフェクターにより Stereo Chorus エフェクトがかかるのを確認します。

【テスト方法】

テストを開始すると、D5のデジタルエフェクターのセッティングを Stereo Chorus にした状態でサイン波が再生されます。ユーザーは再生中に Chorus がかかっていることを耳で聴いて確認します。

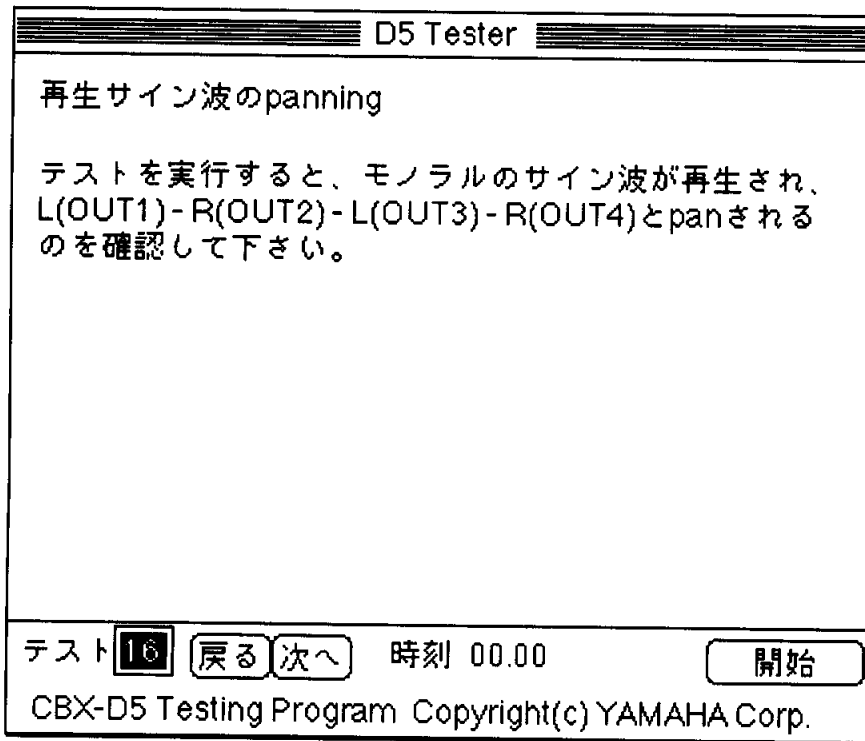
【使用オーディオファイル】

TestData-2

【参考】

再生される音に変化がない場合、MIDI の接続をご確認ください。

16. 再生サイン波の Panning



【内容】

D5のデジタルミキサーによりPAN効果がかかるのを確認します。

【テスト方法】

テストを開始すると、モノラルのサイン波が再生され、PAN が L(OUT1)→R(OUT2)→L(OUT3)→R(OUT4)と変化することを、ユーザーは耳で聴いて確認します。

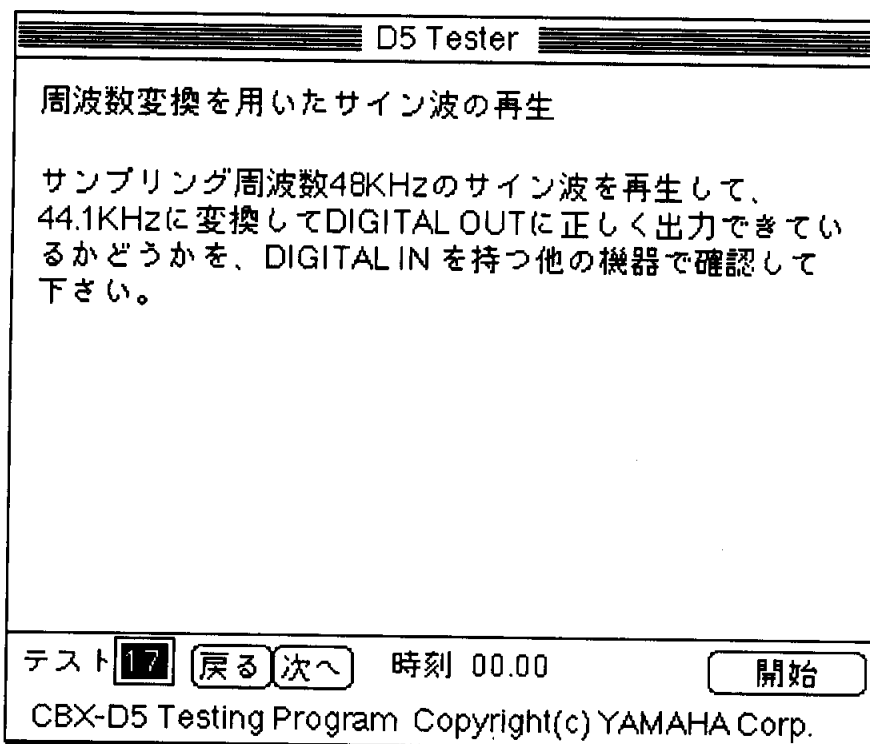
【使用オーディオファイル】

TestData-2

【参考】

再生される音に変化がない場合、MIDIの接続をご確認ください。

17. 周波数変換を用いたサイン波の再生



【内容】

サンプリング周波数 48KHz のデータを再生し、44.1KHzに変換して正しくDIGITAL OUTに出力できるかをテストします。

【テスト方法】

テストプログラムはサンプリング周波数 48KHz のサイン波データを REC FREQ = 48K、PB FREQ = 44.1K で再生します。ユーザーはこのとき、D5のDIGITAL OUTからの出力サンプリング周波数が正しく 44.1KHzになっていることをDIGITAL INを持つ他の機器を用いて確認します。

【使用オーディオファイル】

TestData-2

18. Recording source の選択 (Digital inputs)

D5 Tester	
Recording source の選択	
Recording source を選択して、D5 のその INPUT 端子に他の機器からデータを入力して下さい。D5 の ANALOG OUT から、入力したデータが正しく出力されることを確認して下さい。	
D5 recording source	
<input checked="" type="radio"/> AES/EBU	
<input type="radio"/> Y2	
<input type="radio"/> CD/DAT	
テスト <input type="button" value="18"/> <input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次へ"/>	
CBX-D5 Testing Program Copyright(c) YAMAHA Corp.	

【内容】

DIGITAL IN からのデータが正しく受信できることを確認します。

【テスト方法】

ユーザーは任意の Recording source を画面上のボタンで選択し、その REC SOURCE の INPUT 端子よりデータを入力します。テストプログラムは D5 を Rec monitor 状態にします。ユーザーは指定した REC SOURCE からの信号が ANALOG OUT より出力されることを確認します。

【使用オーディオファイル】

なし

19. ANALOG IN レベルボリュームと Trigger Level

D5 Tester	
ANALOG IN と trigger level	
ANALOG IN からオーディオ信号を入力して、対応する trigger level が表示されるのを確認して下さい。REC FREQ は任意に選択して下さい。	
REC FREQ	Trigger level : 00h: -9dB *****
<input checked="" type="radio"/> 48K	
<input type="radio"/> 44.1K	
<input type="radio"/> 32K	
<input type="radio"/> 22.05K	
テスト <input type="button" value="19"/> <input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次へ"/>	
CBX-D5 Testing Program Copyright(c) YAMAHA Corp.	

【内容】

フロントパネルの ANALOG IN レベルボリュームが正しく動作し、trigger level が正しく認識されていることを確認します。

【テスト方法】

テストプログラムは D5 を REC SOURCE = ANALOG、REC monitor = ON の状態にします。ユーザーは ANALOG IN よりオーディオ信号を入力し、対応する trigger level が画面に表示されるのを確認します。

このとき、レベルボリュームつまみを回転させて、それに応じて trigger level が変化するのを確認します。

REC FREQ はユーザーが画面上のボタンで任意に選択できます。

【使用オーディオファイル】

なし

20. DIGITAL IN の周波数変換

D5 Tester	
DIGITAL INからのデータの周波数変換	
任意のREC SOURCEとREC FREQを選択して下さい。 選択したSOURCEのINPUTからデータを入力し、受信したデータがANALOG OUTから正しく出力されることを確認して下さい。	
REC SOURCE	REC FREQ
<input checked="" type="radio"/> AES/EBU	<input checked="" type="radio"/> 48KHZ
<input type="radio"/> Y2	<input type="radio"/> 44.1KHZ
<input type="radio"/> CD/DAT	<input type="radio"/> 32KHZ
テスト 20 <input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次へ"/>	
CBX-D5 Testing Program Copyright(c) YAMAHA Corp.	

【内容】

DIGITAL INから受信したデータを、正しく周波数変換できることを確認します。

【テスト方法】

テストプログラムは D5 を REC monitor=ON の状態にします。REC SOURCE および REC FREQ はユーザーが任意に選択できます。ユーザーは選択した SOURCE の INPUT よりデータを入力し、REC FREQ を切り替えても正常に信号を受信できることを、ANALOG OUT の出力で確認します。

【使用オーディオファイル】

なし

G テスト用オーディオファイル仕様

TestData-1	mono	Fs=48K	1 KHz sine	8000h - 7FFFh
TestData-2	mono	Fs=48K	1 KHz sine	8001h - 7FFEh
TestData-3	mono	Fs=44.1K	1 KHz sine	8001h - 7FFEh
TestData-4	mono	Fs=32K	1 KHz sine	8001h - 7FFEh
TestData-5	mono	Fs=22.05K	1 KHz sine	8001h - 7FFEh
TestData-6	2ch インターリーブ	Fs=48K	1 KHz sine	8001h - 7FFEh
TestData-7	4ch インターリーブ	Fs=48K	1 KHz sine	8001h - 7FFEh

【参考】

テスト用オーディオファイルを効率よく再生するために、ハードディスクの最適化を実行されることをお奨めします。

尚、ご使用中のアプリケーションのキーファイル等がある場合は、デ・インストール作業を行ってから最適化を実行してください。

ヤマハ株式会社